

第2回	横浜市南区地区センター及び横浜市南寿荘指定管理者選定委員会会議録
日時	令和元年8月23日（金）10時～15時30分
開催場所	南区役所6階601、602会議室
出席者	麻尾委員、小野澤委員、坂本委員、鈴木委員、吉川委員（計5名） 事務局3名
欠席者	なし
開催形態	非公開
議題	1 浦舟コミュニティハウスの指定管理者選定について 2 中村地区センター指定管理者選定について
決定事項	1 浦舟コミュニティハウスは、 指定候補者を「特定非営利活動法人みなみ区民利用施設協会」、 次点候補者を「特定非営利活動法人ワーカーズコープ」と決定。 2 中村地区センターは、 指定候補者を「特定非営利活動法人みなみ区民利用施設協会」、 次点候補者を「相鉄企業株式会社」と決定。
議事	<p>1 選定委員会の進め方について 提案説明から審査まで、全て非公開とすることを確認。</p> <p>2 応募団体について 浦舟コミュニティハウス、中村地区センターとも2団体ずつの公募があったことを報告。 提出された書類から判断し、各団体とも指定期間中安全円滑に対象施設を管理するにあたって、財務状況は支障がないことを報告。 応募団体の市税の滞納がないこと、暴力団又は暴力団経営支配法人にも該当しないことを報告。</p> <p>3 審査方法について 午前中に浦舟コミュニティハウス、午後に中村地区センターの面接審査及び審議を行うこと、提案説明は15分、質疑は20分で行うことを、事務局から説明。</p> <p>4 提案説明及び質疑（浦舟コミュニティハウス） 質疑応答 <u>団体A</u> （委員）緊急時の対応について特筆することがあれば。 （団体）神奈川事業本部が関内にあり自転車で10分程度の距離。連絡網を整備しているの、何かあった場合、すぐに本部の応援体制がとれる。 （委員）ニーズの把握に「何でもノート」を設置するとあるが、どのようなものか。</p>

(団体) 個人情報の関係もあるので名前は書けないが、悩み事など書くことでちょっとホッとするというもの。

(委員) 人員配置は常時1名以上とあるが、どのように考えているか。

(団体) 基本的には2名体制としているが、一部1名の時間帯もある。

(委員) 隣接する市民活動・多文化共生ラウンジとの共同事業などは計画しているか。

(団体) グローバルカフェのように一緒にお茶を飲んでそれぞれの出身地域・国のことを知ってもらえるような事業やハロウィンなどのお祭りのときに子どもたちが交流できるような事業、外国語教室などができるとよいと考えている。

(委員) 学習室設置の提案は具体的にはどのようなものか。

(団体) 基本的には自習室と考えている。中高年のニーズもある。発展形としては、ボランティアで子どもたちの指導をしてくれる方が出てくればと考えている。

(委員) ボランティア講座6回と計画されているが、具体的にはどのようなものか。

(団体) 同一テーマで連続してということではなく、例えば子育てや認知症サポーター、料理教室、ファッション系などいろいろなことを体験する中で、自分にもできることを見つけていただく。

(委員) 材料費が1万円計上されているが用途は。

(団体) 調理室があるので、料理の材料やお茶など。

(委員) 平成30年度の事業報告書から、当施設の特徴はどのようなものと考えているか。

(団体) 多くの施設の一体型の施設というのが特徴と考えている。「まちづくりの推進」という法人の理念もあり、連携をコーディネートするのが得意としている。隣の人たちや異なる階の人たち、自治会の人たちなど、この5年間で関係を構築していきたい。

(委員) 現状の利用状況については、どう評価されるか。

(団体) 10階にあるというのは、来たいという思いがある人しか来ない。現状はそれほど多いとは思わないが、立地からするとまあまあだと思う。サークル活動は活発だが、小中学生に対して何かできたらいいと思う。夏休みの工作教室や書初め教室などを提案している。稼働率を見ると和室が低い。書初めに広さが適当かどうか分からないが、和室の稼働率を上げていきたい。

(委員) 理由はどのように分析しているか。

(施設) コミュニティハウスで和室がある館は少ない。それほど広くもないので、何らかの仕掛けをしていかないといけない。

(委員) 部屋の分割利用を提案しているが、これはどこかで実施した経験があるか。

(団体) 常時ではないが、プレイルームや学習室がないので、空いているときにうまく使えたらいいと思う。(多目的室に)パーティションがついている。大

きさとしては十分と考えている。

(委員) 広域で活動して団体規模も大きい。施設管理や人材の育成などでメリットがあるか。

(団体) 介護予防や障がい福祉など、様々な施設を管理していて本部に情報が集まるので、全国を取組を自分たちの地域にフィードバックすることができる。また、障がい児の施設や通所介護施設なども運営し、福祉の技能を持った職員もいる。そういった方たちへの対応について、情報提供してもらえる。

(委員) 危機管理や個人情報管理について、資格を持った方がいたり、独自のマニュアルを整備したりしているか。

(団体) 個人情報など施設ごとで共通する基本的なことは、初期研修として実施している。個人情報の取扱いに関する誓約書やマニュアルも全国统一で作成している。それ以外に横浜市の個人情報管理の方針やパソコンのリテラシーなど、統括の事業本部や事業所で調べながら研修している。

団体 B

(委員) 公の施設としての管理で、お客様が安全で快適に過ごせるようにとあるが、具体的にはどのようなものか。団体としての特色は。

(団体) 職員による定期的な巡回、清掃スタッフなども廊下をこまめに清掃している。また、より精度の高く広域をカバーする防犯カメラを導入したい。

(委員) 子育て支援事業の利用者のベビーカーについてはどのような配慮をしているか。

(団体) 別の部屋を置き場として利用するなど、活動の邪魔になったり他の利用者の邪魔にならないようにする。備品のテーブルや椅子も、使用しないものは別室に移動するなど、安全を確保したい。

(委員) 定期巡回はどの程度実施するのか。

(団体) 3時間ごとの利用区分で、利用終了後にスタッフが点検確認を行っている。始業時と終業時にも点検するので、1日5回点検している。安全管理については、1階に防災センターがあり、そこの連絡調整を良くすることが要と考えている。

(委員) 図書の購入はどのような層をターゲットとするのか。

(団体) 地区センターと比べて規模が小さい。新刊を早く読みたいというニーズがあるので、新規購入図書については希望票をだしてもらい、予約順が来たらすぐにお知らせできるシステムを導入する。

(委員) 通訳の機械はどのようなものか。

(団体) 大きさはほぼ名刺大。実際に試したが、音声と文字の両方出て、かなり精度は高い。

(委員) WEB 予約の導入時期は。

(団体) 地区センターで先行導入し、コミュニティハウスはスタッフの多い施設で実施後、状況を見ながら導入していきたい。WEB だけでなく窓口でも受け付けるので、公平に対応できるかがポイントだと思っている。

(委員) 1年を通して来ていただくようなイベントがあまり無いようだが。

(団体) 子育て支援事業のあつまれハニービーやおひさま広場は毎月定期的に実施している。それ以外は4～5回だが、そこで顔見知りになってサークル化して継続してもらうことが目標。

(委員) サークル化の実績は。

(団体) 10以上ある。英語の研究や水彩画、ペン習字など。

(委員) 現状の施設利用状況について、どのように評価しているか。

(団体) 交通の便が良いので、区外の方も多く利用されている。稼働率も70%を超えているが、伸びしろはある。現状としては、広範囲の方に利用していただき区内でも便が良くて行ってみたいと思われる施設と考えている。

(委員) 和室の利用率が若干低い。

(団体) 使い勝手として厳しい部分があるが、ほかの部屋がいっぱい有的时候に、和室でもこういうことができますよという案内をしたい。和室として特化した利用に限ると限界があるので、全体としての利用率向上を目指したい。

(委員) 利用者ニーズの把握と反映で、具体的に改善につながったような事例があるか。

(団体) 踊りや居合道で素足になる団体から、掃除機だけでは床の汚れが十分に取れないとの意見があり、フローリング用モップを導入した。また、多目的室の調理コーナーが匂うという意見があり、定期的にパイプクリーニングをするようにした。

(委員) 自主事業で、新たにこういう部分で挑戦してみたという企画はあるか。またそれによってどういうニーズを掘り起こしていきたいか。

(団体) 様式4にお祭を4つ載せているが、施設単独で実施する催しものばかりだったが、積極的に他の施設とコラボレーションして、より活性化したものにしていきたい。外国語絵本の読み聞かせやお国自慢の料理教室も、ラウンジに紹介してもらって一緒にやっていく。地元の歴史探訪は、浦舟地区には石鹼工場発祥の地など地元の人も気づいていないことを探る。座学だけでなく現地へウォーキングする。初めてのボイスレッスンは、区内在住の音大生に講師をお願いして、若い人から教わる機会をつくる。世代間交流や発声での健康づくりなど、初めての試み。

(委員) お祭はこれまでは別々にやっていたのか。

(団体) それぞれの施設でお互いに交流し合うが、マジックショーをやってみるだけだったり部屋を貸すだけだった。お互いの発表をするなど関連が深くなれば、施設のことを知ってもらって新たなニーズも出てくる。利用団体にも参加してもらおうなど全体を大きくしたい。

(委員) 地域との連携、「街の先生」とあるが、地域の範囲はどのあたりまで。

(団体) 「街の先生」は南区の事業で、登録制で分野ごとに名簿があり、そこから紹介してもらおう。対象範囲は南区全体である。

5 審議結果（浦舟コミュニティハウス）

審査結果は、団体 A が 598 点、団体 B が 657 点となった。「特定非営利活動法人みなみ区民利用施設協会」（団体 B）を指定候補者、「特定非営利活動法人ワーカーズコープ」（団体 A）を次点候補者とすることを決定した。

（各委員講評）

団体 B の方が、提案、説明がより具体的だった。また、基本条件の理解度が高かった。団体 A も実績のある優れた団体だが、地域性で団体 B がまさっていた。団体 B の自主事業の内容などに改善の意欲が感じられた。

6 提案説明及び質疑（中村地区センター）

質疑応答

団体 A

（委員）子どもたちの利用が多いが、安全の確保や緊急時の対応は。

（団体）防犯設備士の資格を持った職員が、入口の配置や巡回ルート、注意すべき点をチェックして、館長以下スタッフを指導する。物理的には、防犯カメラの適切な場所への設置や稼働・画角の確認、入館者を確認できる受付配置など。人的対応としては、不審者との距離の取り方や対応の仕方など。24 時間対応の警備センターとも連携をとって対応する。

（委員）火災や地震の際は。

（団体）火災や設備異常等の信号は、弊社のホームセキュリティー部門に送られ、エリアマネージャーに連絡が入る。災害、震災時の備蓄用に 300 人分の水、食料、毛布、非常用トイレを弊社負担で用意する。中村小学校が防災拠点となっているので、そこを支援する施設として機能したい。

（委員）緊急災害時に、子どもたちや施設内の人たちを帰す、帰さないという判断は、どうようにするか。

（団体）区役所や、本社とも連絡・連携しながら対応する。

（委員）修繕計画をつくらせているが、どのようなものか。

（団体）修繕について優先順位をつける。判断基準は、安全・安心が 1 番、建物の設置目的、大事な部分につながっているか、省エネと経費削減などからランクをつける。コストを抑えながら施設の機能も維持して長持ちされるという意識で、最適な修繕計画をつくる。

（委員）事業マネージャーが立ち上げから一定期間をサポートするが、その後の体制はどのようなになるか。

（団体）館長と運営担当 2 名、非常勤の受付スタッフとなる。エリアマネージャーが定期的に巡回し、本社にも建物担当スタッフを配置するので、多忙な時には応援に入る。事業マネージャーは自主事業の連携や改善強化が役割で、5 年間を通してサポートするが、立ち上げの 1 年間は現場に入る。現地スタッフだけでも運営可能だが、更に品質を上げるための体制である。

（委員）スポーツの自主事業は、体育室の稼働率が高いので入る余地はないのでは。

- (団体) 現在利用している団体と日程調整や協働実施などご相談したい。
- (委員) アンケート調査は南区、中区、磯子区が対象となっているが、南区の割合はどのくらいか。
- (団体) 南区が6割、残り2区は2割ずつ。
- (委員) 図書に関する自主事業はどのようなものか。
- (団体) 地区センターの図書などから、おすすめのことを私どもがピックアップして利用者に紹介する。また、利用者におすすめの本をピックアップしてもらい、2～3行の推薦文を書いてもらい展示する。
- (委員) 委員会のメンバーをランダムに選ぶとの記載があるが、意図は。
- (団体) 利用者会議の参加者を募るが、毎回同じ人にならないよう、いろいろな立場の方に参加してもらい、ニーズ把握をしたい。
- (委員) 「自社負担」という言葉が何度か出てきたが、館の予算になっていないと、運営委員会などで把握ができないのでは。施設が使えなくなる期間などあるのか。
- (団体) 趣旨は、施設の魅力向上、来館者増、交流と自主的活動の推進。休館など利用者にご迷惑をかけずに、指定管理期間の当初に実施できるよう準備している。
- (委員) 現状の施設運営上の課題はどのように考えているか。
- (団体) 自主事業に目新しいものが少ない。施設に来たいと思われるような事業を取り入れていきたい。バスケットボールやバドミントン教室、プログラミング教室、ネットマナー&動画制作教室、赤ちゃんと聴くコンサート、警察による防犯講話、消防署による防災訓練やAEDの使い方など。
- (委員) そのほかには。
- (団体) 地域の特性として高齢者、外国人が多く、お子さんの利用も多い。多様な世代をつなげ、相互交流させるという課題がある。次世代の担い手となるような若い世代のリーダーを育て、現在のリーダーの世代と引き継いでいく。また、和室、料理室、工芸室の稼働率が低いので、自主事業で使ったりポイントカードを導入して稼働率アップにつなげたい。
- (委員) 自社負担で施設のリニューアルを行うというのは利用率のアップによる収入増や自主事業からの収入を充てるのか。
- (団体) 施設の収入とは全く別の、弊社の中だけのものとして負担する。施設の魅力をアップして活性化するため、積極的に投資していく。

団体B

- (委員) 稼働率アップのための料理室、和室等の利用方法の提案とは具体的には。
- (団体) 多目的室は準防音になっているので、楽器の演奏ができる。和室は、洋室のような使い方もできる。そういったことをHPなどで提案したい。料理室は、自主事業を増やして、参加者をサークル化していきたい。
- (委員) 小学生の利用が多いが、小学生と未就学児の兄弟が利用する場合の要望や対応はあるか。

	<p>(団体) 個人利用で体育室を使うような場合が多い。ほかの人も使っているので、周りでやっている方たちに気をつけていただく。親がついてみてもらう。監視カメラにより、どのように使われているかを事務室で確認する。</p> <p>(委員) 夏休みの勉強教室は、無料で会議室を貸し出すのか。</p> <p>(団体) 学習室はあるが、満員になってしまうので、会議室を無料で使っていただく。</p> <p>(委員) スタッフは常時3名か。混雑する時間帯は、受付の対応が大切だが。</p> <p>(団体) スタッフが2名に館長又は副館長で最低3名だが、最大5名まで状況に応じて配置する。</p> <p>(委員) 利用料金の改訂の提案の考え方は。</p> <p>(団体) 音漏れ等で制約がある部屋や、稼働率が低い部屋を値下げした。インターネット予約の導入で稼働率が上がれば、トータルの利用料金収入は上げられると考えている。</p> <p>(委員) 料理室は2時間単位の貸出だが、中途半場ではないか。</p> <p>(団体) 2コマ連続で借りられるようになっていたので、3時間よりも使い勝手は良いと考えている。自主事業数も多くして、サークル化を期待したい。</p> <p>(委員) 自主事業からのサークル立ち上げの実績は。</p> <p>(団体) 平成30年度、29年度とも4団体ずつサークル化している。</p> <p>(委員) 自主事業で新たに取り組もうとしているものか何か。</p> <p>(団体) 「中村子どもいこい会」は、毎週やっている「ママと子のホッとタイム」が12時に終わるので、和室で引き続きお昼寝や食事に使っていただく。「ママと子どものヒップホップダンス」は、ストレス発散にもなる。「障害理解講座」は、参加者がレインボーフェスタなどでボランティア的に参加することにつなげたい。</p> <p>(委員) 収支予算は指定上限額となっているが、削減への取組は。</p> <p>(団体) 人の配置を効率的にして、無駄を減らしたい。照明のLRD化により光熱水費を削減する。電気の契約などもこまめに見直している。</p> <p>7 審議結果（中村地区センター）</p> <p>審査結果は、団体Aが675点、団体Bが697点となった。「特定非営利活動法人みなみ区民利用施設協会」（団体B）を指定候補者、「相鉄企業株式会社」（団体A）を次点候補者とすることを決定した。</p> <p>(各委員講評)</p> <p>新しいことへチャレンジしている団体Aと地域密着の団体Bと、甲乙つけがたい。団体Aは、大企業の安定感がある。今まで地区センターに来ていなかった人たちに発信し、来館につなげようという姿勢は評価できる。団体Bは、地域に根差している部分と、スタッフ配置の安定感が評価できる。</p>
資 料	1 評点集計表